



大和高原「福住」プロジェクト
×
オーガニックビレッジ構想

天理市

大和高原「福住村」プロジェクト×オーガニックビレッジ構想(案)



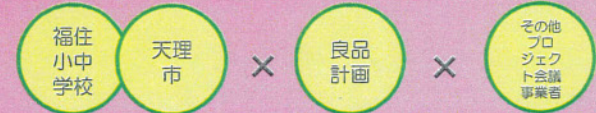
●「福住村」エネルギープロジェクト



●「福住村」移住プロジェクト

旧福住中学校

●「福住村」教育連携「市」プロジェクト



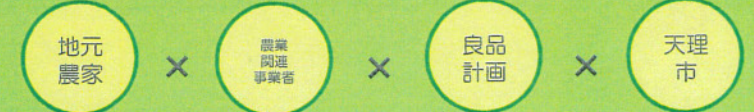
- 福住小中学校の児童生徒とプロジェクト会議に参加する協力事業者による学びのプロジェクトを始動します。



●「福住村」地域交流イベント「市(いち)」

- 教育連携プロジェクトの実践の場として、地域の交流の場として、旧福住中学校を活用して定期的なイベントを開催します。
- 将来的には、高原地域の交流・活動拠点として旧福住中学校を再生していくことを目標に、様々な取組を実施します。

●「福住村」農業プロジェクト



- 高齢化の進展に伴う農業の担い手不足や耕作放棄地の増加等、福住地域の農業における課題を踏まえ、福住地域における将来にわたり持続可能な農業の実現に向けて、圃場整備と新たな有機農業によるお茶や商品作物の栽培や加工商品の開発に取り組みます。

● 高原地域における循環型農業の推進
天理市有機農業産地づくり推進事業【モデル地区：福住校区】

天理市ゼロカーボンシティ宣言

地域資源の新たな価値を創出

地域資源

- 自然由来資源
- ・落ち葉、下草
 - ・間伐材
 - ・農業残渣

地域資源の収集



地域資源の活用

地域資源の循環
太和高原「福住村」プロジェクト

旧福住中学校
(地域をつなぐ拠点)

- 加工施設** 福住産三年晩茶の製造
地域農産物の買取・加工
- バイオマスユニット** BBQ用・土壌改良用炭の生産
地域循環型エネルギーの活用
- 有機農業推進拠点**
(自然堆肥ステーションなど) 有機堆肥の製造・配布
循環型農業セミナー等の開催
- 地域交流イベント**
「市(いち)」 情報の共有・発信
実験・チャレンジの場

農業資材化
(有機堆肥化)

高機能な有機資材として供給

脱炭素地域

福住
小中学校

学校連携

有機農業に向けた
資材供給・営農指導

- ・有機堆肥
- ・有機土壌

土壌診断・施肥設計
(SOFIX)

オーガニックビレッジ構想

土づくり
営農支援
試験農場における作付・栽培計画

付加価値の高い
有機農産物の生産

- ・営農組合による商品作物生産
- ・自然農法による茶畑
- ・地域の畑でも有機農業の推進
- ・有機農法の検証(実験農場)
- ・地域のバイオマス調査

地域で学び、やってみよう

福住村塾

- 有機堆肥
- 土壌改良炭
- SOFIX

稼ぐ力

需要サイドのニーズに応じた流通と商品開発

流通・販売

販路・出口戦略
(無印良品、健一自然農園等連携・協力)

消費者

- 地産地消
- ・エシカル消費
 - ・有機食材
 - 健康・未病の防止

天理市オーガニックビレッジ・ビジョン

農業を取り巻く社会的な状況が大きく変化する今、持続的で環境にやさしい農業を続けていける仕組みづくりが求められています。

天理市では、高原地区をモデル地区として、耕作放棄茶畑を活用したオーガニックのお茶のほか、そのお茶に合わせる野菜や薬草・ハーブなどの生産・加工に農家や住民、民間事業者など地域が一体となって取り組みます。

栽培では、立命館大学 久保教授の開発したSOFIXと呼ばれる土壌診断技術を用い、科学的根拠に基づいた成功しやすい有機農業を推進します。

また、このような中山間の循環型農業のモデルとなるオーガニックビレッジの実現につながる取組を推進し、令和5年度内での「天理市オーガニックビレッジ」の宣言を目指します。

＜オーガニックでのお茶やハーブ等の生産＞

耕作放棄茶園での
三年晩茶の収穫



三年晩茶収穫後
新芽の収穫



耕作放棄地でオーガニックハーブ・
オーガニックフラワーを栽培



営農設立検討会の取り組み
有機による新たな商品作物づくり

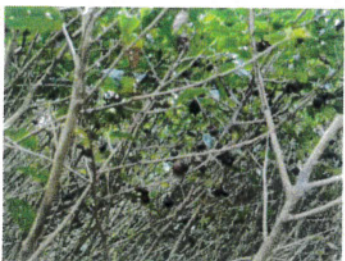


大和ルージュ

あじまるみ大根

耕作放棄茶園での三年晩茶の生産

荷物だと思っているものが
地域の宝に



写真は天理市の高原地域（山田町）の放棄茶畑。
農業飛散もなく、土が肥えている自然栽培に適した茶畑です。



福住産の「三年番茶」を
自然栽培でつくる



高原地域は元々お茶の生産が盛んだった地域です。
高齢者も、お母さんたちも、地域が一体となり、
福住産「三年晩茶」の生産に取り組めます。

お茶以外の作物も
有機農業で生産



「三年晩茶」のブレンド茶として組み合わせる作物についても有機栽培での生産に取り組めます。
また、「黒豆茶」や「コーン茶」など、付加価値の高い商品開発に取り組むことで、地域の「稼ぐ力」をさらに高めていきます。

福住小中学校との連携

健一自然農園 伊川代表による福住小学校3・4年生児童へのお茶についての授業が一年を通して行われます。2月には耕作放棄茶畑の収穫後の様子の見学、3月にはお茶の飲み比べなどを行い、お茶について学習してきました。5月には地域の茶畑でお茶の収穫体験をし、収穫したお茶は健一自然農園に製茶していただき試飲も行います。2月に収穫された三年晩茶は健一自然農園で製茶され、そのパッケージデザインを福住小中学校の児童・生徒が行います。完成した商品は七月市で地域の皆さまへお披露目し、その後無印良品の店舗で販売していただきます。

お茶の授業の様子(放棄茶畑見学・茶摘み体験)



パッケージデザイン(例)



児童・生徒が趣向を凝らし、パッケージをデザインします。3～9年生は良品計画の先生方にもものづくりについてお話いただいたことがあるので、その経験が活かされる機会です。

有機農業による新たな商品作物づくり

①

市内種苗メーカーの(株)大和農園が開発した「あじまるみ大根」



肉質は緻密できめ細かく、軟らかい。長時間煮ても煮崩れしにくく、特に煮炊き用に適しています。

②

「あじまるみ大根」を無農薬で栽培



営農設立検討会メンバーが、休耕田を活用し、無農薬での「あじまるみ大根」の栽培に取り組み、秋には約2,000本の収穫がありました。

③

「あじまるみ大根」を無印良品イオンモール大和郡山店で販売



パートナー事業者の(株)良品計画が開発する無印良品の店舗のリニューアルオープンに合わせ、地域の朝どれ野菜として「あじまるみ大根」を販売しました。

④

有機農業の推進を目指して～今後の取り組み～



作付けに向けた会議の様子。検討会メンバーに(株)大和農園、(株)良品計画も加わり、出口を見据えた生産作物を選定しています。また、地域の学校と連携した自然堆肥づくりを行う予定です。

堆肥による土づくり・堆肥づくり

成功しやすい有機農業を進めるにあたり、土壌や堆肥の成分を分析する等の科学的根拠に基づき土づくりを行っています。有機農業では土壌微生物による循環がスムーズに進む必要があるため、微生物の働きが良好な状態となる科学的な処方箋を出し、それに基づいた土づくりを進めています。



堆肥による土づくり

現在は購入した堆肥を使っていますが、専門家による指導を受け、地域で出た農業残渣等を原料とした堆肥づくりにもチャレンジし、堆肥の地産地消を目指します。



堆肥・育土研究所

橋本 力男氏の堆肥場を見学

地域での堆肥生産を目指し、堆肥場運営や堆肥づくりのノウハウを学んでいきます。今年度はプロジェクト関係者や小中学校が取り組みますが、この知見を地域に広げ、地域全体で堆肥づくりや有機農業に取り組む流れを作っていきます。



福住村塾

有機農業や循環型地域づくりのすそ野を広げるためのセミナー&ワークショップ、「福住村塾」を定期的に開催しています。

令和4年度に「食のまなび」「農のまなび」「里のまなび」と3回開催し、地域内外から120名を超える方にご参加いただきました。

食・農・里など身近なことについてお話いただくなかで、参加者のみなさんには有機農業や循環型社会についての理解を深めていただき、学びを地域内外に持ち帰っていただけました。

なかには耕作放棄地や耕作放棄茶畑での活動に参加することで福住村塾での学びを実践されている方もおり、地域で実践者が生まれるきっかけにもなっています。

第4回 花のまなび（講師：大和農園事業本部長 内田様）

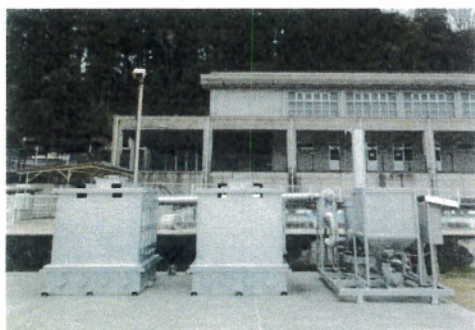


クラフトエネルギー事業(モバイルユニット型バイオマス発電)

grafによるクラフトエネルギー事業では、令和5年4月に旧福住中学校のグラウンドにモバイルユニットの設置が完了し、これまでに2回のテスト製炭を行いました。

原料には、三年晩茶収穫で出た太すぎる茶木や、市内の柿農家から提供していただいた剪定枝を使っています。今後も農業残渣など地域の未利用材を活用した炭づくりを行いながら、炭の燃料以外での活用や、発電によるエネルギーの地産地消について検討していきます。

モバイル型ユニット・二次燃焼機
原材料には地域の未利用資源を活用



製炭した炭はまずはバーベキュー用炭
としての販売を目指します



校舎のリノベーションの際に、
炭のチップを吸湿材として使用
(健一自然農園)



みどりの食料システム戦略推進交付金のうち
有機農業産地づくり推進

【令和5年度予算概算決定額 696（837）百万円の内数】
 （令和4年度補正予算額 3,000百万円の内数）

＜対策のポイント＞

地域ぐるみで有機農業に取り組む市町村等の取組を推進するため、有機農業の団地化や学校給食等での利用など、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻きこんで推進する取組の試行や体制づくりについて、物流の効率化や販路拡大等の取組と一体的に支援するとともに、都道府県の推進体制づくりを支援し、有機農業推進のモデル地区を創出します。

＜事業の内容＞

1. 有機農業実施計画の策定

有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻きこんだ取組を推進するため、

- ① 構想聴取 ② 試行的な取組の実施 ③ 実施計画の取りまとめ等を支援します。

2. 推進体制の構築

実施計画に基づく取組の継続的な実施に向け、

- ① 推進体制が整うまでの暫定段階の取組
 ② 農業者、事業者、地域内外の住民等の関与する推進体制づくり等を支援します。

3. 展開・普及の促進

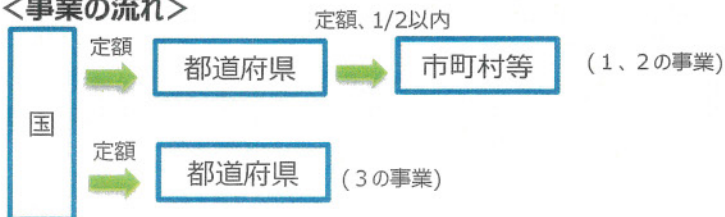
都道府県の推進体制を構築するため、都道府県全体を対象とした有機農業の勉強会や検討会の開催等の取組を支援します。

（関連事業）先進事例の共有

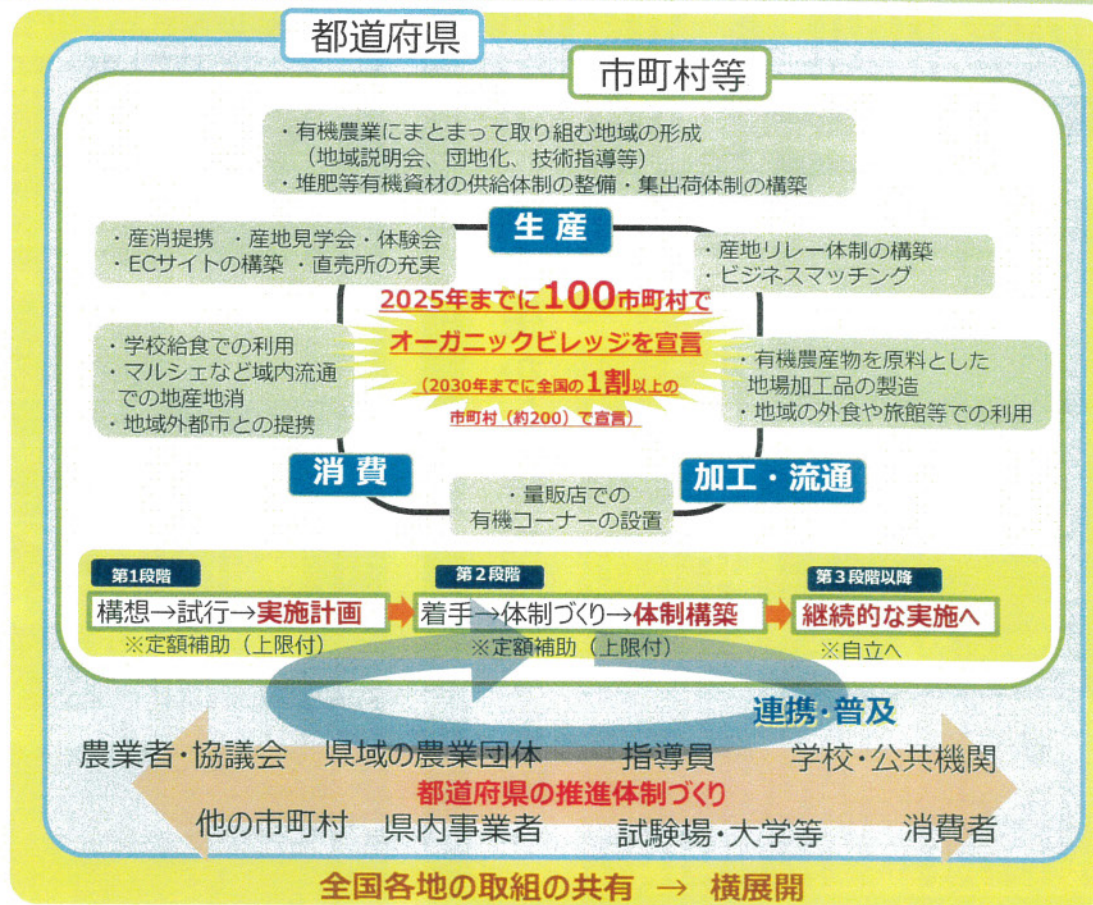
全国各地の取組を共有し横展開を促す会議等の開催を支援。
 （有機農業推進総合対策事業のうち産地間・自治体間連携促進事業において実施）

※事業実施主体の市町村又は、協議会の所在する市町村において、有機農業に関する栽培管理協定が結ばれている又は結ばれる予定である場合、採択に当たってポイントを加算します。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞



オーガニックビレッジを中心に、有機農業の取組を全国で面的に展開

メディアに取り上げられました

東北四国に位置する山間地域の天
田市福住町。かつて大和茶の生産地と
して名を馳せたが、近年は人口減少が
進む。茶の耕作放棄地が目立ち、ま
うした牛、羊や地域産物があがる年
に立ち上げられた「大和産物産出
プロジェクト」は、田畑の整備や土壌
の回復、茶畑の再開の中心で、地域の
活力を再生して人畜びきまり、観光
取の原動力となる。木村健一（木村健一）

「福住村プロジェクト」

「福住村プロジェクト」



伸びっぱなしだった茶の木を刈る地域住民ら—天田市福住町



「福住村プロジェクト」の成果として、天田市の農産物展示会に出展された茶葉や野菜、果物などが並ぶ。背景には「福住村プロジェクト」のポスターが掲示されている。

R5.3 産経新聞

魅力生かし 持続可能な里山へ

手がけているのは、大和郡山田町の「福住村プロジェクト」代表の木村健一さんだ。茶畑の再開や土壌の回復、茶畑の再開の中心で、地域の活力を再生して人畜びきまり、観光取の原動力となる。木村健一（木村健一）

福住村プロジェクトは、茶畑の再開や土壌の回復、茶畑の再開の中心で、地域の活力を再生して人畜びきまり、観光取の原動力となる。木村健一（木村健一）

茶の産地再生願い

福住地区

7月開品化へ 放置の木刈り、番茶に加工

茶畑の再開や土壌の回復、茶畑の再開の中心で、地域の活力を再生して人畜びきまり、観光取の原動力となる。木村健一（木村健一）

R5.4.13 毎日新聞

産地の復興 希望を

福住地区

茶畑の再開や土壌の回復、茶畑の再開の中心で、地域の活力を再生して人畜びきまり、観光取の原動力となる。木村健一（木村健一）

R5.5.25 毎日新聞

「新茶飲むのが楽しみ」

福住地区

15年ぶり茶摘み体験

茶畑の再開や土壌の回復、茶畑の再開の中心で、地域の活力を再生して人畜びきまり、観光取の原動力となる。木村健一（木村健一）

R5.5.26 産経新聞

摘んだ新茶 ひとな味

福住地区

茶畑の再開や土壌の回復、茶畑の再開の中心で、地域の活力を再生して人畜びきまり、観光取の原動力となる。木村健一（木村健一）

R5.5.26 朝日新聞

福住地区 茶を飲むために

福住地区

茶畑の再開や土壌の回復、茶畑の再開の中心で、地域の活力を再生して人畜びきまり、観光取の原動力となる。木村健一（木村健一）

R5.5.26 奈良新聞